

令和5年度に実施する令和4年度基本業務評価の結果について（概要）

1 基本業務評価の概要

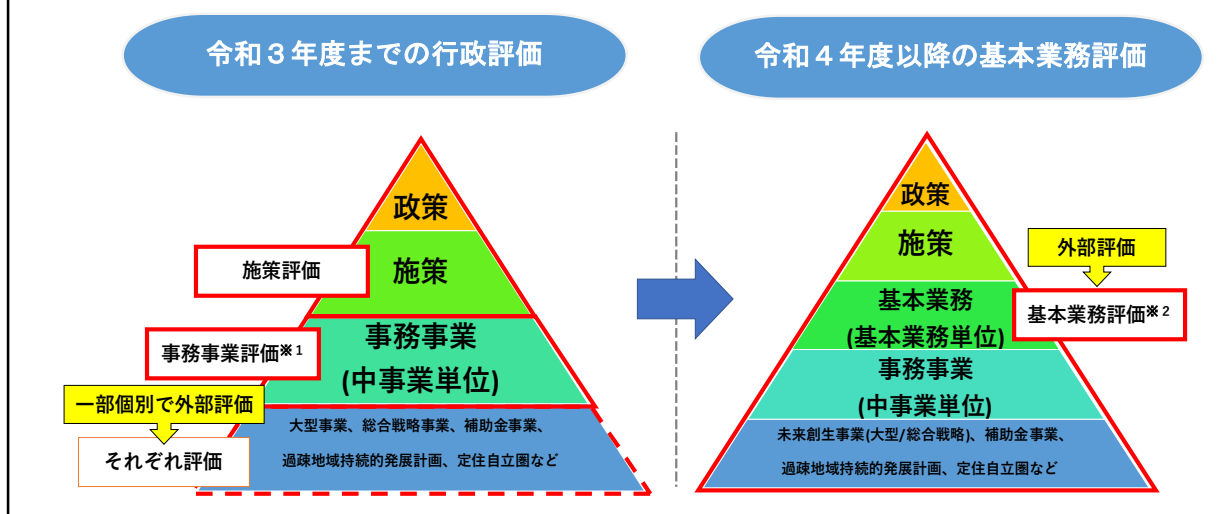
基本業務評価は、これまで内部評価のみで行ってきた市の行政評価を見直し、客観的かつ専門的視点での外部評価を交えることで、総合計画の実効性を高め、より良い市政運営に資することを目的としたものである。

基本業務評価委員会では、外部評価としてヒアリングによる審査を基本に、4回にわたる審議により令和4年度に実施された市の執行機関等が所管する基本業務134件のうち、「共通（部局内の情報集約や連絡調整、各課室の運営に係る基本業務）」等を除く131件の基本業務の評価を実施した。

※ 基本業務とは

基本業務は、令和3年から令和4年にかけて市内部で行った体系調査に基づき、業務（分掌事務）を束ねる共通項目として、新たに設定したものである。

設定した基本業務は、第3次総合計画の施策体系に反映させるとともに、予算、「基本業務評価」等の共通項目として関連付けるものとなる。



※ 基本業務評価とは

これまで約600の事務事業（中事業）単位で行っていた評価を見直し、約130の基本業務単位で評価するものであり、さらに、総合計画との紐づけにより、施策評価を兼ねるものである。

また、これまで「事務事業評価」でも行っていた内部評価に加え、外部評価を実施することで、総合戦略の効果検証など個別で受けていた外部評価を補完するほか、より客観的な評価が期待される。

2 評価結果について

(1) 評価結果の判定区分と基準

基本業務評価委員会の評価は、基本業務の指標（K P I）等について以下の判定理由に基づき、委員会からの意見として示された。

評価結果	判定基準
適切	・現在の活動指標や評価指標は客観的に判断し分かりやすいものとなっている。 ・指標の設定理由は合理的であり、各基本目標の目的を達成するために的確・妥当なものとなっている。
修正・要検討	・指標の内容や表現が客観的に判断し分かりにくいものとなっており、修正が必要である。 ・基本目標と各指標に関連が薄く基本業務を評価するために十分でないため、指標の修正や新たな指標の検討が必要である。

(2) 評価結果の件数と割合

評価結果は、「適切」が105件、「修正・要検討」が26件であった。

評価結果	適切	修正・要検討	合計
件数	105 件	26 件	131 件
割合	80.2%	19.8%	100.0%

3 評価結果に対する所管課所の今後の対応

外部評価において「適切」と判断された基本業務の指標については、外部評価のご意見・内容を踏まえて今後も継続するものとし、「修正・要検討」と判断された基本業務の指標については、外部評価のご意見を踏まえ指標の修正、追加を検討するものとする。

4 総括

今年度の基本業務評価での外部評価を踏まえ、基本業務の指標を合理的で分かりやすいものに整理していくとともに、今後の基本業務評価については、市民に分かりやすくより良い指標の検討を継続して行っていくことで、内部評価による基本業務評価表の磨き上げを継続しつつ、その内容を公表する手法を検討していくこととする。